

(3) 乳児死亡及び新生児死亡

乳児死亡数は118人で、前年より7人増加した。乳児死亡率は出生千人に対し2.2で、前年より0.2ポイント上昇した。

乳児死亡のうち新生児死亡数は、52人で前年より4人増加した。新生児死亡率は出生千人に対し1.0で、前年より0.1ポイント上昇した。

全国は、乳児死亡率が前年より0.1ポイント上昇し2.0、新生児死亡率が前年と同率の0.9であった。(表-21、図-16、図-17)

表-21 乳児死亡及び新生児死亡の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	
乳児	数	埼玉県	1 523	1 348	1 232	1 015	558	369	280
		全国	49 293	33 742	25 412	19 103	11 841	7 899	5 616
	率	埼玉県	35.1	20.2	13.5	10.6	7.4	5.5	4.4
		全国	30.7	18.5	13.1	10.0	7.5	5.5	4.6
新生児	数	埼玉県	955	931	869	673	369	228	168
		全国	27 362	21 260	16 742	12 912	7 796	4 910	3 179
	率	埼玉県	22.0	14.0	9.5	7.0	4.9	3.4	2.7
		全国	17.0	11.7	8.7	6.8	4.9	3.4	2.6

		7	12	17	22	26	27	28	
乳児	数	埼玉県	257	210	137	133	118	111	118
		全国	5 054	3 830	2 958	2 450	2 080	1 916	1 928
	率	埼玉県	3.8	3.2	2.3	2.2	2.1	2.0	2.2
		全国	4.3	3.2	2.8	2.3	2.1	1.9	2.0
新生児	数	埼玉県	124	105	61	62	54	48	52
		全国	2 615	2 106	1 510	1 167	952	902	874
	率	埼玉県	1.8	1.6	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0
		全国	2.2	1.8	1.4	1.1	0.9	0.9	0.9

注：率は出生千対である。

図-16 乳児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)

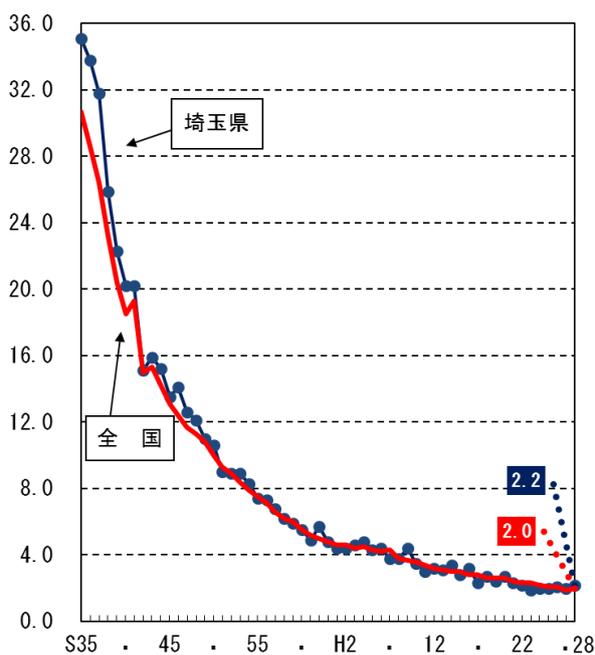
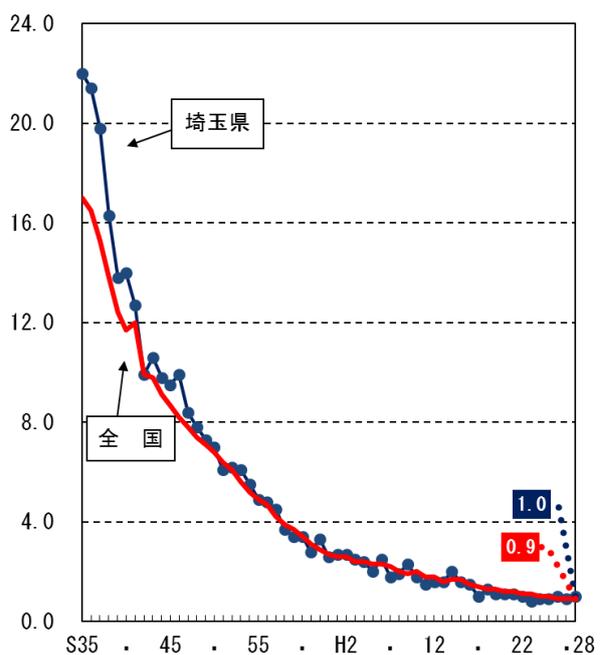


図-17 新生児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)



(4) 自然増減

自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は△9,019人で、前年の△6,488人より2,531人減少し、平成24年に戦後初めて増加から減少に転じて以降、5年連続しての減少となった。

年次推移をみると、第2次ベビーブーム期の昭和46～49年には75,000人を超えていたがその後急激に減少し、平成15年に20,000人を、平成20年から10,000人を割っていた。

自然増減率は人口千人に対し△1.3で、前年より0.4ポイント低下した。全国は前年より0.3ポイント低下し△2.6であった。（表-22、図-18）

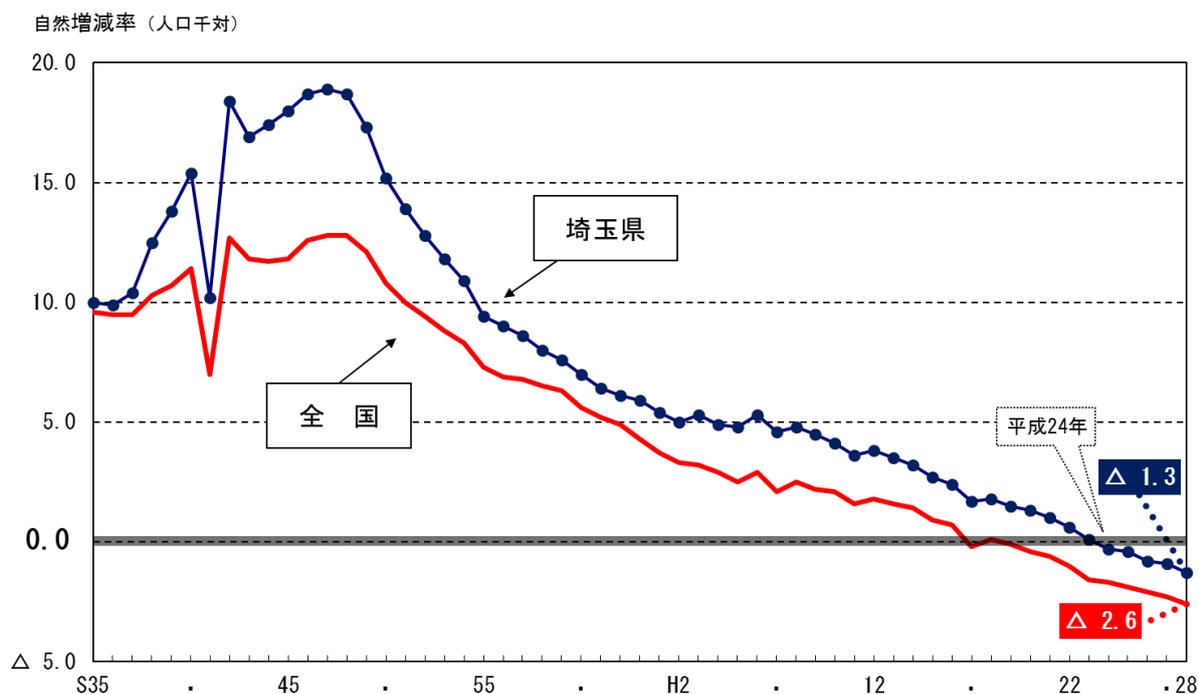
表-22 自然増減数及び自然増減率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	24 332	46 468	69 277	73 345	50 961	40 843	32 077
	全国	899 442	1 123 259	1 221 277	1 199 165	854 088	679 294	401 280
率	埼玉県	10.0	15.4	18.0	15.2	9.4	7.0	5.0
	全国	9.6	11.4	11.8	10.8	7.3	5.6	3.3

		7	12	17	22	26	27	28
数	埼玉県	30 951	25 890	11 636	3 950	△ 5 504	△ 6 488	△ 9 019
	全国	264 925	228 894	△ 21 266	△ 125 708	△ 269 465	△ 284 767	△ 330 770
率	埼玉県	4.6	3.8	1.7	0.6	△ 0.8	△ 0.9	△ 1.3
	全国	2.1	1.8	△ 0.2	△ 1.0	△ 2.1	△ 2.3	△ 2.6

注：率は人口千対である。

図-18 自然増減率の年次推移（埼玉県・全国）



市町村別にみると、高率順では、和光市（5.2）、戸田市（4.9）、朝霞市（3.4）の順である。

また、低率順では、小鹿野町（△13.5）、長瀨町（△12.2）、皆野町（△11.9）の順である。

自然増減数・率がマイナスの市町村は、前年より4市増加して63市町村中50市町村であった。（表-23、図-19）

表-23 市町村別にみた自然増減率（高率順） 埼玉県

順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率
1	和光市	5.2	22	東松山市	△ 1.4	43	本庄市	△ 4.8
2	戸田市	4.9	23	蕨市	△ 1.6	44	羽生市	△ 5.0
3	朝霞市	3.4	24	坂戸市	△ 1.7	45	幸手市	△ 5.5
4	吉川市	1.6	25	入間市	△ 2.1	46	毛呂山町	△ 5.6
5	滑川町	1.1	26	桶川市	△ 2.6	47	嵐山町	△ 5.7
6	志木市	0.7	27	北本市	△ 2.7	48	行田市	△ 6.1
7	三郷市	0.6	28	鴻巣市	△ 2.9	49	寄居町	△ 6.3
8	富士見市	0.3	29	上里町	△ 3.0	50	秩父市	△ 6.8
9	新座市	0.3	30	春日部市	△ 3.0	51	神川町	△ 7.5
10	越谷市	0.3	31	松伏町	△ 3.0	52	小川町	△ 7.7
11	さいたま市	0.3	32	蓮田市	△ 3.0	53	吉見町	△ 8.0
12	八潮市	0.2	33	久喜市	△ 3.0	54	鳩山町	△ 8.5
13	伊奈町	0.1	34	深谷市	△ 3.1	55	横瀬町	△ 8.5
14	川口市	△ 0.0	35	宮代町	△ 3.2	56	川島町	△ 8.9
15	白岡市	△ 0.3	36	狭山市	△ 3.2	57	東秩父村	△ 9.1
16	ふじみ野市	△ 0.5	37	三芳町	△ 3.4	58	越生町	△ 9.7
17	草加市	△ 0.7	38	熊谷市	△ 3.5	59	美里町	△ 10.8
18	川越市	△ 0.9	39	日高市	△ 4.1	60	ときがわ町	△ 11.4
19	所沢市	△ 1.0	40	加須市	△ 4.4	61	皆野町	△ 11.9
20	上尾市	△ 1.1	41	杉戸町	△ 4.7	62	長瀨町	△ 12.2
21	鶴ヶ島市	△ 1.3	42	飯能市	△ 4.7	63	小鹿野町	△ 13.5

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

(5) 死産

死産数は1,181胎で、前年より169胎減少した。死産の内訳をみると、自然死産は前年より95胎減少し575胎、人工死産は前年より74胎減少し606胎であった。

死産率は出産千人（胎）に対し21.2で、前年より2.3ポイント低下した。全国は1.0ポイント低下し21.0である。（表-24、図-20、図-21）

表-24 死産数及び死産率の年次推移

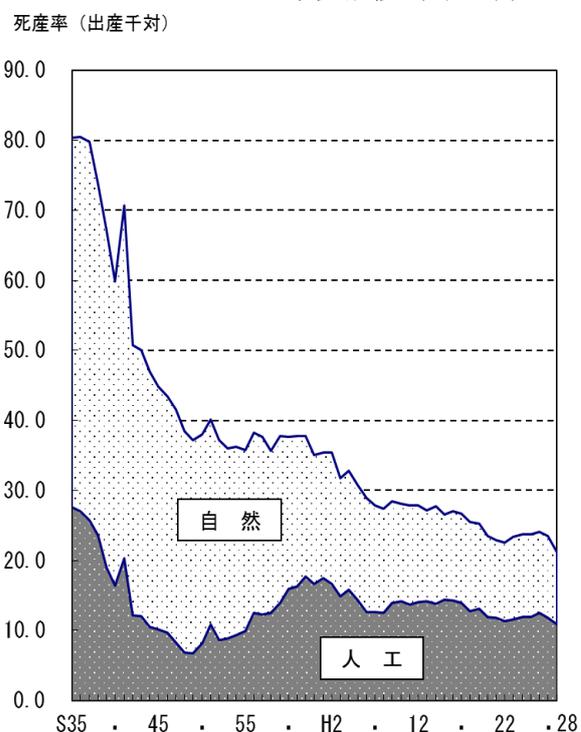
		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	26	27	28
死 産 数	埼玉県	3 794	4 237	4 277	3 795	2 792	2 630	2 324	1 944	1 907	1 637	1 375	1 382	1 350	1 181
	全国	179 281	161 617	135 095	101 862	77 446	69 009	53 892	39 403	38 393	31 818	26 560	23 524	22 617	20 934
死 産 率	埼玉県	80.4	59.8	44.8	38.0	35.8	37.6	35.4	27.9	27.9	26.7	22.6	24.2	23.5	21.2
	全国	100.4	81.4	65.3	50.8	46.8	46.0	42.3	32.1	31.2	29.1	24.2	22.9	22.0	21.0
(自然) 数	埼玉県	2 491	3 077	3 307	2 976	2 021	1 521	1 226	1 057	941	780	690	665	670	575
	全国	93 424	94 476	84 073	67 643	47 651	33 114	23 383	18 262	16 200	13 502	12 245	10 905	10 862	10 067
(自然) 率	埼玉県	52.8	43.4	34.7	29.8	25.9	21.8	18.7	15.2	13.8	12.7	11.3	11.6	11.7	10.3
	全国	52.3	47.6	40.6	33.8	28.8	22.1	18.3	14.9	13.2	12.3	11.2	10.6	10.6	10.1
(人工) 数	埼玉県	1 303	1 160	970	819	771	1 109	1 098	887	966	857	685	717	680	606
	全国	85 857	67 141	51 022	34 219	29 795	35 895	30 509	21 141	22 193	18 316	14 315	12 619	11 755	10 867
(人工) 率	埼玉県	27.6	16.4	10.2	8.2	9.9	15.9	16.7	12.7	14.1	14.0	11.3	12.5	11.8	10.9
	全国	48.1	33.8	24.7	17.1	18.0	23.9	23.9	17.2	18.1	16.7	13.0	12.3	11.4	10.9

注：率は出産（出生＋死産）千対である。

図-20 死産率の年次推移
（埼玉県・全国）



図-21 死産率（自然・人工）の
年次推移（埼玉県）



(6) 周産期死亡

周産期死亡数は185人（胎）で、前年より23人（胎）減少した。

周産期死亡率は出産千人（胎）に対し3.4で、前年より0.3ポイント低下し、全国（3.6）を0.2ポイント下回った。年次推移をみると、長期的に低下傾向にある。（表－25、図－22）

なお、平成7年の上昇は、周産期死亡の定義が変わり、後期死産が「妊娠満28週以後」から「妊娠満22週以後」に改められたことに原因があるものと考えられる。

表－25 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	26	27	28
周産期死亡数	埼玉県	1 892	1 956	1 889	1 546	899	555	401	476	397	281	252	221	208	185
	全国	66 552	54 094	41 917	30 513	18 385	11 470	7 001	8 412	6 881	5 149	4 515	3 750	3 728	3 516
周産期死亡率	埼玉県	43.6	29.4	20.7	16.1	12.0	8.3	6.3	7.0	6.0	4.7	4.2	4.0	3.7	3.4
	全国	41.4	30.1	21.7	16.0	11.7	8.0	5.7	7.0	5.8	4.8	4.2	3.7	3.7	3.6
後期死産数	埼玉県	1 287	1 306	1 213	1 014	603	380	275	385	319	242	205	181	175	145
	全国	49 512	39 955	29 107	20 268	12 231	7 733	4 664	6 580	5 362	4 058	3 637	3 039	3 063	2 840
後期死産率	埼玉県	29.6	19.6	13.3	10.6	8.0	5.6	4.3	5.7	4.8	4.0	3.4	3.2	3.1	2.7
	全国	30.8	21.9	15.0	10.7	7.8	5.4	3.8	5.5	4.5	3.8	3.4	3.0	3.0	2.9
早期新生児死亡数	埼玉県	605	650	676	532	296	175	126	91	78	39	47	40	33	40
	全国	17 040	14 949	12 810	10 245	6 154	3 737	2 337	1 832	1 519	1 091	878	711	665	676
早期新生児死亡率	埼玉県	13.9	9.8	7.4	5.5	3.9	2.6	2.0	1.3	1.2	0.7	0.8	0.7	0.6	0.7
	全国	10.6	8.2	6.6	5.4	3.9	2.6	1.9	1.5	1.3	1.0	0.8	0.7	0.7	0.7

注1：周産期死亡率・後期死産率は出産（出生＋後期死産）千対である。

注2：早期新生児死亡率は出生千対である。

注3：後期死産とは、妊娠満22週以後の死産である。

図－22 周産期死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

周産期死亡率（出産千対）

